

## 第6学年 国語科学習指導案

### 1 単元名 相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう 「学級討論会をしようⅡ」

### 2 指導観

- 本学年の子どもたちは、1学期の国語科の「話すこと・聞くこと」の単元において、「学級討論会をしようⅠ」の学習を行い、賛否が分かれる話題について立場をはっきりさせて話し合う経験をしている。その中で、自分の意見・考えを先に述べて、その理由を後から話したり、相手の意図を確かめながら質問したりと、説得力のある話し方を身に付けてきている。しかし、考えの根拠を明確にして話したり、相手の意図をふまえて質問的に的確に答えたり、また、相手の意見をふまえて自分の主張にいかしたりすることについては十分ではない。また、子どもたちの意識の中でも「質問に対して的確に答えることが難しかった」「最後の主張の仕方が分からなかった」という思いが強く、1学期の討論会において達成感を感じさせるまでに至らなかった。

子どもたちの「話すこと・聞くこと」に対する意識をアンケート調査したところ、「みんなの前や先生の前で、自分の考えや思っていることを進んで話せますか」という質問に対し、「あまりできない、できない」が57%だった。その理由として、「何を言っているかわからない」が9%、「どう言っているかわからない」が41%と半数を占めている。このことから、話し方が分からず自信がもてない子どもが多いことが分かる。

一方、教師の目から見たところでも、答えが一つの発問に対しては意欲的に挙手して発言する姿も見られるが、考えの理由や根拠が求められる場面では、発言する子どもは限られてくる。また、考えを比べながら聞くことについて、アンケート調査では「よくできる」15%、「だいたいできる」53%、「あまりできない」27%、「できない」5%と子どもの達成意識は比較的高いが、共通点や相違点を考えながら聞いて自分の考えをまとめ、話すことにつなげているとは言い難い。

- 本単元は、二者択一の話題について、自分の立場をはっきりさせて、それぞれの意見の長所・短所を分析的に考え、相手を説得する話し方を工夫したり、相手の意図を聞き取ったりして、よりよい主張にまとめる力をつけることをねらいとしている。討論においては、一方的に自分の意見を主張するのではなく、相手の主張をふまえながら、聞き手に自分の主張を納得させるように論を展開していくことが重要である。そのためには、自分の経験や具体例を示しながら話したり、相手の意見を聞き、相手につなげて話したりしながら、伝えたいことをよりの確に話す力が必要である。また、話し手の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点を考えながら聞く力が必要になってくる。

以上のことから、本単元で設定する討論の活動は、「話すこと・聞くこと」の能力と適切に話したり聞いたりする態度を育てる上で価値があると考えられる。

- 本単元の指導にあたっては、まず「つかむ」段階において、「学級討論会をしようⅠ」の振り返りと話題の違いから、学習のめあてをつかませる。そして、それぞれの話題についての長所・短所を明確にし、討論会の準備をする。その際に、初めの主張の仕方や質問の仕方をモデルで確かめるようにする。次に、「伝え合う」段階において、①自分の体験や具体例を入れて考えの根拠をより明確にして話すこと。②相手の意見をふまえて、自分の主張にいかして話すこと。③自分の考えと比べながら聞くことに視点を絞り、話し方・聞き方の技能を身に付けさせるようにする。その際に、より説得力のある話し方になるようによい例とよくない例の2つのモデルを比較提示して、グループでの練習の場を設定する。また、相手の主張をよく聞き、それをふまえて発言するモデル文を提示し、初めの主張との違いがあらわれるように、相手の意見をふまえて自分たちの主張ができるようにしたい。そして「いかす」段階では、これまで学習してきた話し方・聞き方のポイントをいかして討論会を行い、達成感を実感させたい。

#### こんなモデル・提示の仕方

- モデル文を提示する。  
初めの主張・主張に対する質問・質問に対する答え・最後の主張について、その話し方をモデルとして提示し、くり返し練習させることで確実に身に付くようにする。
- DVDを見せる。  
より説得力のある話し方にするように、主張に自分の体験や具体例を入れた話し方や相手の意見をふまえた主張の仕方のモデル映像を提示し、自分たちもその方法を用いるようにする。
- モデルグループの実際を見る。  
モデルをもとに身に付けた話し方で実演し、共通理解を促す。

### 3 単元目標

- 立場が分かれる問題について、互いの立場を尊重しながら進んで討論会に参加することができる。
- 互いの意見の長所・短所を分析的に考え、自分の立場や根拠を明確にして、相手を説得する話し方をすることができる。
- 話し手の意見を、自分の考えと比べながら聞き、自分の考えを深めたり、再構築したりすることができる。
- それぞれの役割を各自が理解し、協力し合いながら計画的に話し合うことができる。

4 指導計画 (全4時間)

段階	配時	ねらい	学習活動	主な支援と留意点
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1学期の「学級討論会をしようI」を振り返り、課題を明らかにして、学習の見通しをもつことができる。</li> <li>○ それぞれの話題についてA、Bの長所・短所を明らかにして、討論会の準備をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ IIではAかBか立場が分かれた場合の討論会をすることをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 反省をまとめた表を貼り、考えやすくする。</li> </ul>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>単元のめあて AかBか立場がわかれた時の話し合いの仕方について考え、より説得力のある討論会をしよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>話題 「都会と田舎、住むにはどちらがいいか。」 「お小遣いは、定額制がいいか、必要に応じてもらう方がいいか。」 「夏遊ぶなら海がいいか、プールがいいか。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3つの話題を各グループで分け、A、B両方の立場で自分の考えを作り、根拠を考える。</li> <li>○ 同じグループで自分の側の根拠を整理し、自分たちの主張、質問を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主張に入れる根拠の数、作り方を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>初めの主張・質問の仕方のモデル</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一学期に使った「初めの主張・質問の仕方のモデル」も掲示し確認する。</li> </ul>
伝え合う	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 質問に答えるための適切な話し方ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 適切に質問に答えるための話し方を理解する。</li> <li>○ グループ内で、主張する側、質問する側に分かれて練習する。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>DVD話し方のモデル</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経験や具体例を入れたり、相手の意見を受けたりして答えていることに気付かせる。</li> <li>○ 主張や質問・答えで使う言葉のモデルを提示して確認する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の意見を受けてより説得力のある話し方ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手の意見を受けて主張する話し方を理解する。</li> <li>○ 相手の意見を受けて自分の長所を強調して主張をする練習をする。</li> <li>○ 討論会①を行う。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>最後の主張のモデル</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ モデル文を提示し、相手の主張を受け、内容を厳選して自分たちの最後の主張ができるように援助する。</li> <li>○ 相手の意見を受けて質問の答えや最後の主張ができているか講評する。</li> </ul>
いかす	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し方・聞き方のポイントをいかして討論会を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 討論会②③を行う。</li> <li>○ 討論会をふり振り返り、成果を話し合う。</li> <li>○ 本単元の学習の振り返りとまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聞くグループの児童の判定基準が明らかになるよう、講評させる。</li> <li>○ 司会進行が得意でない児童には適宜支援する。</li> </ul>

## 5 本時（2／4）

### 6 本時の目標

- 討論会において適切に質問に答えるための話し方を身に付けることができる。
- よりよい討論会にするために、意欲的に話し方の練習をすることができる。

### 7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、決まった話題について二つの違う立場で自分の考えをそれぞれまとめ、グループ内で自分たちの主張、質問はどのようなものにするか話し合い、決定している。その中で、1学期の学習をふまえて初めの主張の仕方、質問の仕方をモデルをもとに繰り返し練習し、子どもたちなりに自信をもって初めの主張を述べたり、質問をしたりすることができるようになってきている。しかし、どのように質問に答えたらよいのか分からなかったり、意見の述べ方が通り一遍なものにしかなり得なかったりして、深まりのあるよりよい討論会にするための話し方を身に付けることはできていない。

そこで本時は、討論会における質問に、適切に受け答えするための話し方を身に付けることをねらいとし、質問されたことに対して自分の意見をよりよく述べるための練習をする場面である。その際、モデルをもとに練習を繰り返し行い、討論会に備える。そのことは、発言することを躊躇しがちな子どもたちにとって、自信をもって発言するための指針となり、討論会を活発なものにするための手だてとなり得ると考える。

したがって、質問に答えるための話し方の一つとして、ここでは経験や具体例入れて答える方法と相手の意見を受けて答える方法とを採り上げる。そこでまず、「例えば」、「わたしの経験では」、「たしかに」などの言葉を使った話し方とそうでない話し方を比べさせるために、モデルとして、DVDを見せ、そのよさを捉えさせるようにしたい。その上で、それを使った練習を小グループで行い、お互いに評価し合うことにより、討論会で適切に質問に答えることができるようにしたい。また、小グループでの実際の練習もモデルとして全体に見せることにより、練習の仕方が共通なものとなるようにしたい。

### 8 準備

- 教師           モデル文       DVD
- 子ども       学習カード

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>めあて</p> <p>よりよい討論会にするために、質問に対して答えるときの話し方を身につけよう。</p> </div> <p>2 質問に対して答えるときの話し方について知り、練習をする。</p> <p>(1) 経験や具体例を入れて答える場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ DVDを見て比べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「例えば」</li> <li>・「わたしの経験では」</li> </ul> </li> <li>○ グループで練習する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Aグループの話題</p> <p>都会といなか、住むにはどちらがいいか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Bグループの話題</p> <p>おこづかいは定額制がいいか、必要に応じてもらう方がいいか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Cグループの話題</p> <p>夏遊ぶなら海がいいか、プールがいいか。</p> </div> <p>(2) 相手の意見を受けて答える場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ DVDを見て比べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たしかに～。しかし、～。」</li> </ul> </li> <li>○ グループで練習する。</li> </ul> <p>3 教師の話聞き、今日の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時学習を想起させる。</li> <li>○ DVDを見せ、「例えば」を使った話し方とそうでない話し方の2つを比べさせる。</li> <li>○ 例文を掲示し、ポイントを示して全員で繰り返し音読させる。</li> <li>○ 具体例や経験が入れば、「例えば」を他の言葉に置き換えて使ってもよいことをつかませるために、再度DVDを見せる。</li> <li>○ グループを6, 7名で構成し、グループの中で主張する側、質問する側に分かれて役割を決めておき、練習のしかたを共通に確認できるようにどれか一つのグループに実演させる。</li> <li>○ 「例えば」、「わたしの経験では」などを使って繰り返し練習させる。</li> <li>○ 経験や具体例が入った話し方になっているか確かめるために、質問する側の人はチェックシートに記入しながら聞くようにさせる。</li> <li>○ 「例えば」を使った場合と同様の手順でDVDを見せた後、「たしかに～。しかし、～。」を使って練習させる。</li> <li>○ 1時間の学習で、話し方について、分かったことやできるようになったことを中心に今日の学習を振り返らせる。</li> </ul>

## 10 モデル



ぼくは、学級文庫にマンガを置くのに賛成です。良いマンガもたくさんあるからです。



ぼくは、学級文庫にマンガを置くのに賛成です。良いマンガもたくさんあるからです。たとえば、「歴史マンガ」や「科学のひみつシリーズ」などです。」



私は学級文庫にマンガを置くのに反対です。マンガがしか読まない人がでてくるからです。



私は学級文庫にマンガを置くのに反対です。マンガがしか読まない人がでてくるからです。私の経験では、四年生のときに学級文庫にマンガをおいたら、マンガがしか読まない人が出てきました。



良いマンガであれば、学習の役に立ちます。



たしかに、学級文庫にマンガをおいたら、マンガがしか読まない人も出てくるでしょう。しかし、学習の役に立つマンガもあります。



マンガの本では文章を理解する力を高めることはできません。



たしかに、マンガには良いものもあります。しかし、マンガの本では、文章を理解する力を高めることはできません。

## 5 本時（3／4）

### 6 本時の目標

- 相手の意見を受けた最後の主張の練習を通して、より説得力のある話し方を身に付け、討論会に生かすことができる。
- より説得力のある主張にするために、モデルを通して、相手の意見を受けた話し方を理解することができる。

### 7 本時指導の考え方

本時は、相手の意見を受けた最後の主張の練習を通して、より説得力のある話し方を身に付け、その話し方を討論会に生かすことができるようにすることを目標としている。その際に、モデルを使って、どのようなことに気をつけて最後の主張をすればよいのかに気づかせ、繰り返し練習することで、より説得力のある話し方を身につけさせていきたい。

前時までに子どもたちは、DVDによる映像モデルで、よいモデルとそうでないモデルの二つを比較して、根拠をより明確にした話し方や相手の意見を受けて自分の意見を述べる話し方を学習している。また、習得した話し方を練習することにより、質問に答えるための適切な話し方ができるようになってきている。しかし、最後の主張においては、討論の中で出てきたことを受け止めてまとめることが不十分で、説得力のある話し方ができているとはいえない。

そこで、本時は、相手の意見を受けた最後の主張の練習を通して、より説得力のある話し方を学び、実際の討論会でその話し方を使うことができるようにしたい。その際に、「学校の昼食は、給食がいいか弁当がいいか」という話題で、初めの主張と最後の主張の二つのモデルを提示する。最後の主張のモデル文を見てよいところを話し合い、質問のやり取りすべてを受けて主張するのではなく内容を厳選して主張することや、相手の意見を受け、例や自分の体験を付け加えて自分の意見を主張することを確認する。そして、モデルを生かして、グループで自分たちの話題の最後の主張を考え、相手の意見を受けて自分の長所を主張する話し方を練習する。

練習をした後、学習したことを生かして討論会①を行う。最後の主張の作戦タイムの前には、授業の前半をふり返り、最後の主張のポイントを生かして最後の主張を考えるように助言する。教師の講評では、相手の意見を受けて最後の主張ができたかという視点で、子どもたちの伸びや頑張りを賞賛する。また、討論会終了後に、1時間の学習でどんなことがわかったか、どんなことができるようになったかについて振り返り、次時の討論会への意欲付けを行いたい。

### 8 準備

- 教師 掲示用モデル文
- 子ども 学習プリント

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">最後の主張の話し方を練習し、討論会をしよう。</span> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時学習を想起させる。</li> <li>○ 本時は、相手の意見を受けた最後の主張の練習をし、討論会を行うことを知らせる。</li> </ul>
<p>2 最後の主張の話し方の工夫を知り、練習する。</p> <p>(1) モデル文を見て、最後の主張の話し方のよいところを見つけ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問のやり取りすべてを受けて主張するのではなく内容を厳選して主張する</li> <li>・相手の意見を受け、例や自分の体験を付け加えて意見を主張する</li> </ul> <p>(2) グループごとに、自分たちの話題について最後の主張を練習する。</p> <p>3 討論会①をする。</p> <p>(1) 話題を確認する。</p> <p>(2) それぞれのグループが最初の主張を行う。</p> <p>(3) 作戦タイムで打ち合わせをする。</p> <p>(4) 質問と答えを行う。</p> <p>(5) 最後の主張を行う。</p> <p>(6) 聞くグループが判定と講評を行う。</p> <p>(7) 教師の講評を聞き、討論会を振り返る。</p> <p>4 今日の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ モデルを提示し、ポイントを示して全員で繰り返し音読させる。</li> <li>○ 最後の主張の話し方のポイントを使って、考えをまとめていくようにする。</li> <li>○ 相手の意見を受けた主張ができているか、ポイントに沿って活動するように助言する。</li> <li>○ 最後の主張の前に、モデルのポイントを振り返り、この型を生かして主張するよう助言する。</li> <li>○ モデルの型を生かして最後の主張ができていたか講評する。</li> <li>○ 一時間の学習で、相手の意見を受けた最後の主張の話し方について、分かったことやできるようになったことを中心に、今日の学習を振り返らせる。</li> <li>○ 今まで練習したこと、今日の討論会の反省を生かして、残りの討論会をすることを伝える。</li> </ul>

## 10 モデル

「学校の昼食は、給食がいいか弁当がいいか」

給食側

初めの主張

「私たちは、給食の方がよいと思います。理由は、三つあります。一つ目は、栄養士の先生がこん立を作っているので栄養バランスがとれているからです。二つ目は、学校で作っているので冷たいデザートや温かいおかずや汁物を食べることができるからです。三つ目は、毎日おうちの人が弁当を作らなくてすむからです。」

質問①

「給食は栄養士の先生が作っているので栄養バランスがとれていると言っていましたよね。弁当でも栄養バランスを考えて作れば給食と同じだと思うのですが、どうですか？」

質問②

「学校で作っているので温かいおかずなどが食べられると言っていましたよね。弁当でも保温性の高い入れ物を使えば温かいおかずが食べられると思いますが、どうですか？」

質問③

「給食だと、毎日おうちの人が弁当をつくらなくてすむと言っていましたよね。おうちの人が大変にならないように、私たちが手伝ったり、たまには自分で作ったりすればいいと思いますが、どうですか？」

最後の主張

「私たちは、弁当より給食の方がよいと思います。たしかに、弁当だと自分の好きなものばかり食べられます。しかし、好きなものばかり食べると栄養バランスにかたよりが出てしまいます。実際に私も、遠足のときおうちの人に作ってもらった弁当には、自分の好きなものを入れてもらっています。それが毎日になると、栄養バランスは本当にかたよってしまうのではないのでしょうか。栄養士の先生がこん立を作ってください給食の方が栄養バランスに優れています。以上の理由により、私たちはやはり、給食の方がよいと思います。」

## 5 本時（4／4）

### 6 本時の目標

- 相手を説得する話し方を工夫したり，相手の主張や根拠を考えながら聞いたりすることができる。
- より説得力のある話し方をするように，今までに学習したモデルを活用して，自分の体験や具体例を取り入れて話すことができる。

### 7 本時指導の考え方

本時は，前時までに学んできた，より説得力のある話し方を討論会の中で実際に使っていく場面である。相手の主張や質問を受けて，聞き手分かりやすく説明したり反論したりすることをめざしている。説得力のある話し方とは①何を伝えようとしているかよくわかる ②根拠がはっきりしているである。

前時，子どもたちは2グループが1つの話題で討論会を行った。討論会の中で，本単元で練習してきた「最初の主張の仕方ができる」，「相手の意見を受けて自分たちの意見を言うことができる」，「最後の主張を相手の意見を受けて言うことができる」話し方を使って討論し，相手の主張や根拠を考えながら聞いたり自分の考えと比べながら聞いたりしてきた。

本時では，討論に参加するグループ，司会，聞き手を交代しすべての子どもが討論に参加し，今まで学んできた話すこと・聞くこと・話し合うことを生かす学習活動にしていきたい。そのため教室側面には今までに使ってきたモデル文を掲示し，子どもたちが利用しやすくしている。また，討論会の中で相手の意見を理解し意見を受けた発言をするために，討論グループも聞き手グループもメモをとらせたい。司会者には進行をスムーズにするために台本（討論会の進め方）を持たせているが，進行が滞った場合や質問が不明確で答えにくい場合等は担任が適宜助言を行っていきたい。

最後に，本単元の学習をふりかえり「わかったこと」「できるようになったこと」を書かせ交流し，次の単元「みんなで生きる町」での発表や学級会での話し合い活動などに生かす意欲を高めたい。

### 8 準備

- 教師 討論会話題掲示 モデル文
- 子ども 討論会用プリント

9 本時の展開

主な学習活動	主な支援と留意点
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 前時の討論会（前半）の反省をふまえることと、今まで練習してきた主張の仕方、質問の仕方・答え方を討論会で生かすことを伝える。</p>
<p>めあて</p> <p>主張の仕方・質問の仕方や答え方を工夫して、より説得力のある討論会をしよう。</p>	
<p>2 討論会②を行う。</p> <p>(1) 話題を確認する。</p> <p>(2) それぞれのグループが最初の主張を行う。</p> <p>(3) 作戦タイムで打ち合わせをする。</p> <p>(4) 質問と答えを行う。</p> <p>(5) 最後の主張を行う。</p> <p>(6) 聞くグループが判定をし、感想を言う。</p> <p>(7) 教師の講評を聞き、討論会を振り返る。</p>	<p>○ 今までのモデルを掲示し、発言するときに利用しやすくする。</p> <p>○ 司会進行がスムーズに行くよう、助言する。</p> <p>○ 質問の答えでつまづいたときは適宜支援を行う。</p> <p>○ 討論会③に生かす点を伝える。</p>
<p>3 討論会③を行う。</p> <p>(1) 話題を確認する。</p> <p>(2) それぞれのグループが最初の主張を行う。</p> <p>(3) 作戦タイムで打ち合わせをする。</p> <p>(4) 質問と答えを行う。</p> <p>(5) 最後の主張を行う。</p> <p>(6) 聞くグループが判定をし、感想を言う。</p> <p>(7) 教師の講評を聞き、討論会を振り返る。</p>	<p>○ 聞くグループが、主張のポイントをメモできるよう支援する。</p> <p>○ 今まで学んだことが生かされていたかどうか講評する。</p>
<p>4 「学級討論会Ⅱをふり返って」を書き、単元を反省する。</p>	<p>○ この学習を、学級会や「みんなで生きる町」での発表に生かしていくことを伝える。</p>

11 伝え合う力が育つための「話すこと・聞くこと」の単元を中心にした年間計画（6年）

時期	単元・題材・ねらい・話題・相手・形態	話す力	聞く力	話し合う力
4月	本と親しみ，自分と対話しよう 「カレーライス」	○一度で聞こえる声で音読する。 ○話の組み立てを工夫しながら感想を話す。	○相手の話を共感的に聞く。	
5月	文章を読んで，自分の考えをもとめよう 「生き物はつながりの中に」	○正しい言葉遣いで発表する。 ○話の根拠を明らかにして話す。 <b>「教科書の○ページを見てください。ここに…と書いてありますね。」</b> ○聞き手の反応を確かめながら。 ○事実と感想を区別して話す。	○確かめながら聞く。 ○事実と感想を区別して聞く。 ○うなずきながら，反応しながら聞く。	
6月	相手の意図を聞き取り，自分の主張を伝えよう 「学級討論会をしようⅠ」 ねらい：相手を説得する話し方を工夫したり，相手の論点を的確に聞き取ったりして，結論を導こうとして討論する 話題：学級文庫にまんがを置くのはよいか 相手：友達 形態：討論会	○相手を説得する話し方をする。 <b>「私は～に賛成です。理由は○つあります。一つめに」</b> ○相手の主張をふまえて質問をする。 <b>「～と言いましたが，なぜ…なのですか。」</b>	○話し手の考えや理由を自分の考えと比べながら聞く。	○討論会の話題に沿って積極的に話し合う。
7月	読書の世界を深めよう 「本は友達」	○考えたことや意図が分かるように話す。 ○目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す。 ○実際の本を示しながら話す。	○話し手の意図を掴みながら聞く。 ○メモを取りながら聞く。	
9月	「学級討論会をしようⅡ」 ねらい：意見の長所・短所を分析的に考え，相手を説得する話し方を工夫したり，相手の意図を聞き取ったりして，よりよい主張にまとめる 話題： ①都会と田舎，住むにはどちらがいいか。 ②お小遣いは，定額制がいいか，必要に応じてもらう方がいいか。 ③夏遊ぶなら海がいいか，プールがいいか。 相手：友達 形態：討論会	○自分の立場や根拠を明確にし，体験談や具体例を入れて話す。 <b>「たとえば，・・・です。」</b> <b>「自分の経験では・・・ました。」</b> ○相手の意見をふまえ，自分の主張にいかして話す。 <b>「たしかに，・・・です。しかし・・・と思います。」</b> <b>「・・・という考えは参考になりましたが，やっぱり私たちは，・・・と思います。なぜならば・・・からです。」</b>	○話し手の考えと自分の考えを比べ，共通点や相違点を考えながら聞く。	○役割を各自が理解し，協力し合いながら計画的に話し合う。

9月	共に考えるために伝えよう 「みんなで生きる町」 ねらい：「多くの人が使えるように」をきっかけに、自分の身の回りの物をユニバーサルデザインの観点から見直し、調べたことを交流して深まった考えをまとめる。 話題：福祉，ユニバーサルデザイン 相手：友達 形態：提案，発表	○発表メモをもとに発表する。 ○話の組み立てを工夫してわかりやすく発表する。 「最初に、それから、また、では…」 ○資料を見せるタイミングを考えて話す。 ○視線や声の大きさに気をつけ、聞き手の様子確かめながら話す。	○自分の考えの参考になることや共感できること、疑問に思うことなどをメモしながら聞く。	○話し合いを通してみんなの考えをよりよいものに練り上げる。
10月	表現を味わい、豊かに想像しよう 「やまなし」	○題名や冒頭の一文から初発の感想を言う。 ○感想メモを基に感想を発表する。	○自分の考えの参考になることや共感できることに気を付けて聞く。	○「やまなし」「イーハトーヴの夢」の感想を交流する。
11月 12月	筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう 「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」	○筆者の考えや伝えたいことを、根拠を明らかにして話す。 ○反対意見も取り入れつつ自分の考えを発表する。	○事実と考え・意見を区別して聞く。	○平和についての意見や感想を交流する。
1月 2月	「今、わたしは、ぼくは」 言葉っておもしろいな 「わたしたちの言葉」 ねらい：小学校生活を振り返り、一番伝えたいことが効果的に伝わるようにスピーチする 話題：忘れられない出来事 将来の夢 心に残る言葉 感謝の思い 相手：保護者，友達 形態：スピーチ	○小学校生活を振り返って思うことを、相手や場面に応じた適切な構成で話す。 ○「何を、何のために、どのように」話すのか。 ○伝えたいことの中心を明確に話す。 ○話し始めと結びを工夫して、全体の組み立てを考える。 「○○を覚えていますか？」 ・結論から始める。 ・山場から始める。 ・問いかけから始める。	○話の中心を意識して聞く。 ○友達の話聞き、エピソードから意図を聞き取る。	○より効果的なスピーチになるようアドバイスし合う。
3月	学習したことを生かして 「海の命」 「今、君たちに伝えたいこと」 「生きる」	○考えたことや自分の意図がわかるように話の組み立てを工夫しながら目的や場に応じた適切な言葉遣いで話す。	○話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	
伝え合う力が育ち、生かす場	○音読タイム……口形・声の大きさに気を付けて音読をする。 ○スピーチ・対話活動……興味のある話や心に残る出来事、自分らしい体験や考え方・感じ方が伝えられるような話題を工夫して、スピーチや対話活動を行う。 (例：私の失敗ストーリー、私の宝物(実物を見せながら)など) ○掲示物……その時間や単元で身に付けさせたい力をカード化する。復唱させる。 ○他教科でも話す場面を多く取り入れる。			